

トロノ木Ⅳ遺跡

TORONOKI-Ⅳ Site

—昭和63年度発掘調査報告書—

CONTENTS

Preface

Explanatory notes

Contents

I	Introduction of the research	1
II	Local environmental condition of TORONOKI-Ⅳ Site	5
III	Contents of the research	7

1989.9

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.

序 文

宮古市内には、現在の所、私たちの先人たちによって残され守り継いで来た貴重な遺跡が 400ヶ所余も確認されております。

本報告書は、宅地造成工事によって消滅することとなった崎山トロノ木Ⅳ遺跡の記録保存のために実施した発掘調査の成果をまとめたものであります。

当市では、当遺跡を含む崎山地区に存在する28ヶ所もの遺跡を崎山遺跡群として、その内容把握や保存のための資料収集を目的とした範囲確認調査を、昭和61年度から実施しており、その成果も『崎山遺跡群Ⅰ～Ⅲ』として刊行しております。

崎山トロノ木Ⅳ遺跡は、昭和60年度に一度、発掘調査されており、その際には、縄文時代中期の竪穴住居跡4棟等を検出し、その内容も『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡発掘調査報告書』として公表しております。

今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡1棟のほか16基の土壇跡が検出されました。残念なことには、今回の調査対象区の攪乱が著しく竪穴住居跡等は、完全な形で調査をすることが出来ませんでした。いささかなりとも今後の埋蔵文化財の保護と研究に役立つことができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査の実施から報告書の作成、刊行に当って多大なる御協力を頂いた宮古住宅産業株式会社（代表取締役 中島由視）をはじめ、実際の調査作業に携わった市民の皆様及び関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成元年9月

宮古市教育委員会

教育長 保坂純三

例 言

1. 本書は、岩手県宮古市大字崎山第3地割字トロノ木地内に所在するトロノ木Ⅳ遺跡の昭和63(1988)年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宮古住宅産業株式会社(代表取締役 中島由視)の委託を受け、宮古市教育委員会が主体となり、緊急発掘調査として実施した。
3. 調査座標は、平面直角座標第X系を崎山遺跡群調査用に座標変換したものを使用したが、局地的な座標系であることを明示するためにRを冠して表示した。
座標軸方向——第X系に準じる
調査座標原点——X - 35800.000 Y + 97000.000
4. 高さは、標高値をそのまま使用した。
5. 上層観察に際しては、『新版標準土色帖』(1967 小山正忠、竹原秀雄)を参考とした。
6. 本文中の引用文献の略称は次の通りとした。(すべて宮古市教育委員会発行)
『宮古市遺跡分布調査報告書1～4』 武田将男 1983～86→『分布調査1～4』
『宮古市遺跡分布図 昭和60年度版』 武田将男 1986→『分布図 86』
『崎山遺跡群Ⅰ 昭和61年度発掘調査概報』 高橋憲太郎 1987→『崎山遺跡群Ⅰ』
『崎山遺跡群Ⅱ 昭和62年度発掘調査概報』 高橋憲太郎 1988→『崎山遺跡群Ⅱ』
『崎山遺跡群Ⅲ 昭和63年度発掘調査概報』 高橋憲太郎 1989→『崎山遺跡群Ⅲ』
『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』 上野猛 1986→『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ』
『トロノ木Ⅰ遺跡 第1次～第7次発掘調査報告書』 高橋憲太郎 1989→『トロノ木Ⅰ』
7. 本書の執筆は、鎌田が担当し編集には、高橋、盛合が加わった。

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	
1. 調査に至る経過	1
2. 調査要旨	1
3. 調査体制	1
II 遺跡をとりまく環境	
1. 遺跡の位置	5
2. 地形・地質	5
III 調査内容	
1. 調査の方法	7
2. 遺構・遺物の検出状況	7
3. 層序	7
4. 検出した遺構・遺物	9

挿図目次

第1図	位置図	2
第2図	周辺の遺跡	3
第3図	地形分類図	4
第4図	全体図	6
第5図	層序図	8
第6図	竪穴住居跡、第16号土壇跡	10
第7図	竪穴住居跡土層断面図	11
第8図	第1号、2号土壇跡	14
第9図	第3号～5号土壇跡	15
第10図	第7号～9号土壇跡	16
第11図	第6号、10号～12号土壇跡	17
第12図	第13号、14号土壇跡	18
第13図	第15号土壇跡	19
第14図	出土遺物	19

写真図版目次

第1図版	崎山遺跡群全景
第2図版	崎山トロノ木Ⅳ遺跡全景
第3図版	調査区トレンチ(1)、(2)
第4図版	遺構検出状況、竪穴住居跡（南から）
第5図版	竪穴住居跡（東から）、第8号土壇跡
第6図版	第6号土壇跡（検出状況）、第6号土壇跡（完掘）

I 調査経過

1. 調査に至る経過

崎山トロノ木Ⅳ遺跡は、宮古市崎山第3地割字トロノ木地内に所在し、宮古市の遺跡コードL G 14-2121、遺跡番号Sa-26として登録、周知されている。

当遺跡を含む崎山地区は崎山遺跡群として知られており、市内における発掘調査件数の最も多い地区でもある。また、当遺跡群内の中心的な遺跡である崎山貝塚においては、昭和61年度から5ヶ年計画でその内容把握のための第1次範囲確認調査が継続されており、その成果も概報として毎年刊行されている。

崎山遺跡群内の過去における発掘調査の成果等については、平成元年（1989）3月に刊行された『トロノ木Ⅰ遺跡』の1ページにその一覧表が掲載されているのでそちらを参照されたい。

今回の発掘調査は、宮古住宅産業株式会社より当遺跡を包蔵する一帯について宅地として造成・分譲したいという届出に基づき、協議の結果、記録保存を前提として緊急に実施したものである。

2. 調査要旨

発掘調査期間 昭和63年9月12日～同年11月14日

調査対象面積 6,286㎡

検出遺構 縄文時代中期の竪穴住居跡1棟の外、土坑跡16基を検出・精査したが、竪穴住居跡については、かなりの削平及び攪乱を受けており全容としては不詳な面もある。また、遺物については出土量が少なく極小の破片が主体である。

3. 調査体制

発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査主体 宮古市教育委員会（教育長 小野寺聰→保坂純三）

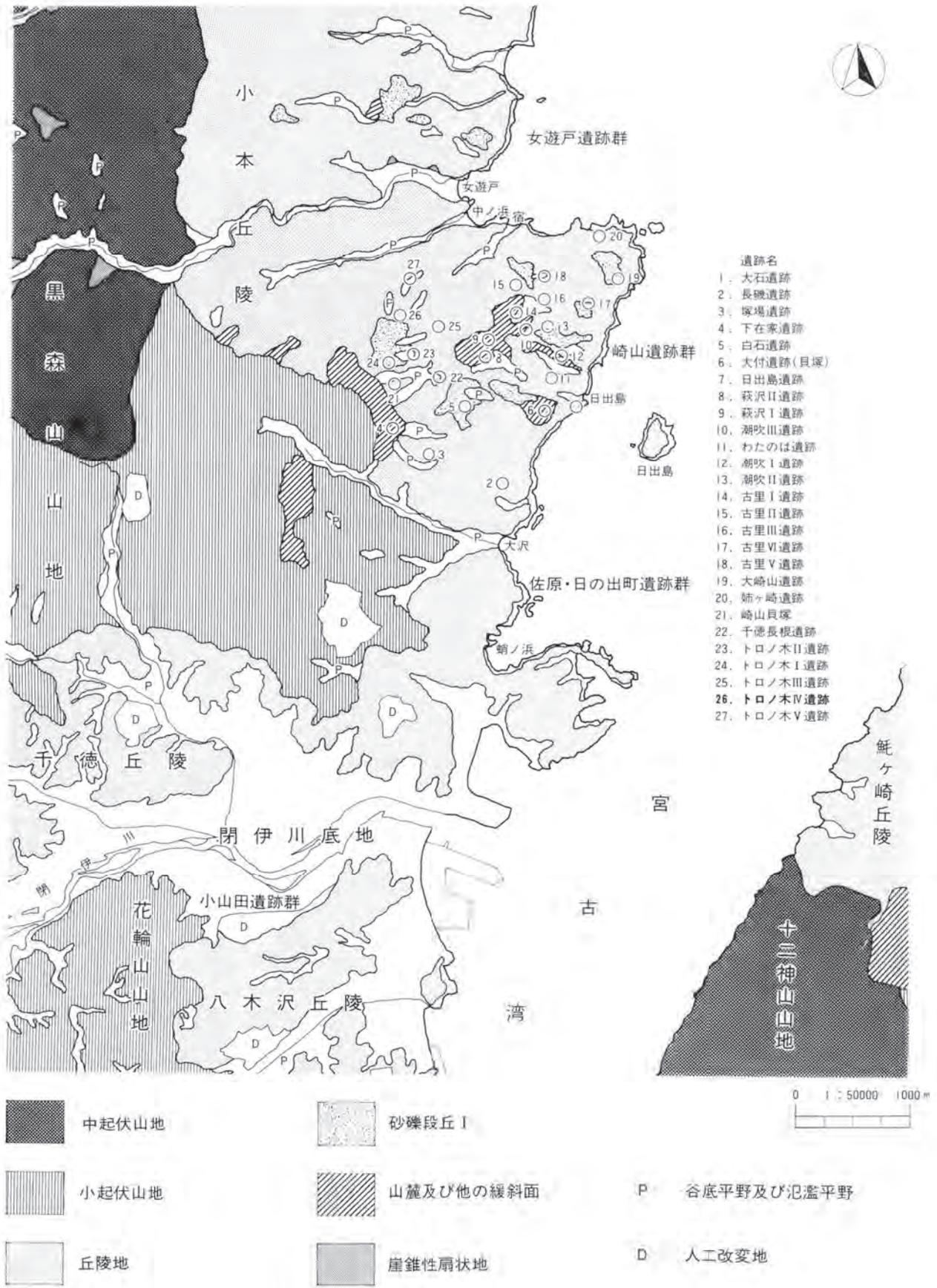
〃 総括 吉田 昌義（社会教育課長）
小本 哲（社会教育係長）
高橋憲太郎（社会教育係主事）
鎌田 祐二（社会教育係主事）
盛合 義信（社会教育係主事）



第1図 位置図



第2図 周辺の遺跡



第3図 地形分類図

II 遺跡をとりまく環境

1. 遺跡の位置（第1図、第2図）

宮古市では、昭和57年度から4ヶ年にわたり市内の遺跡詳細分布調査を実施した。その結果、約400ヶ所余の遺跡が確認され、『分布調査1～4』及び遺跡台帳として『分布図86』として刊行されている。

崎山トロノ木Ⅳ遺跡は、宮古市街地の北効、崎山地区に所在する。崎山地区には、現在の所28ヶ所もの遺跡の存在が確認されており、崎山遺跡群として把握されている。

崎山遺跡群内の28ヶ所の遺跡の詳細については、『崎山遺跡群Ⅰ～Ⅲ』、『トロノ木Ⅰ』等に記載されており、そちらを参照されたい。

崎山トロノ木Ⅳ遺跡は、この崎山遺跡群内でも海岸部からやや離れた北西側に位置する。トロノ木地区には、トロノ木Ⅰ～Ⅴ遺跡の5ヶ所の遺跡が存在するが、トロノ木Ⅴ遺跡で、縄文時代早期～前期の遺物が出土するほかは、だいたい縄文時代中期～後期の遺物が主体となる。

昭和60年度に実施されたトロノ木Ⅳ遺跡の発掘調査においても、中期の竪穴住居跡4棟が検出されており、その内容については、『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ』に掲載されている。

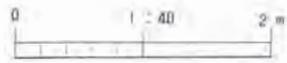
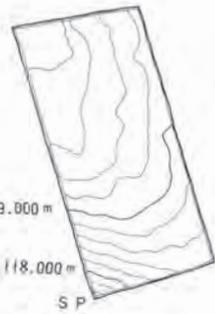
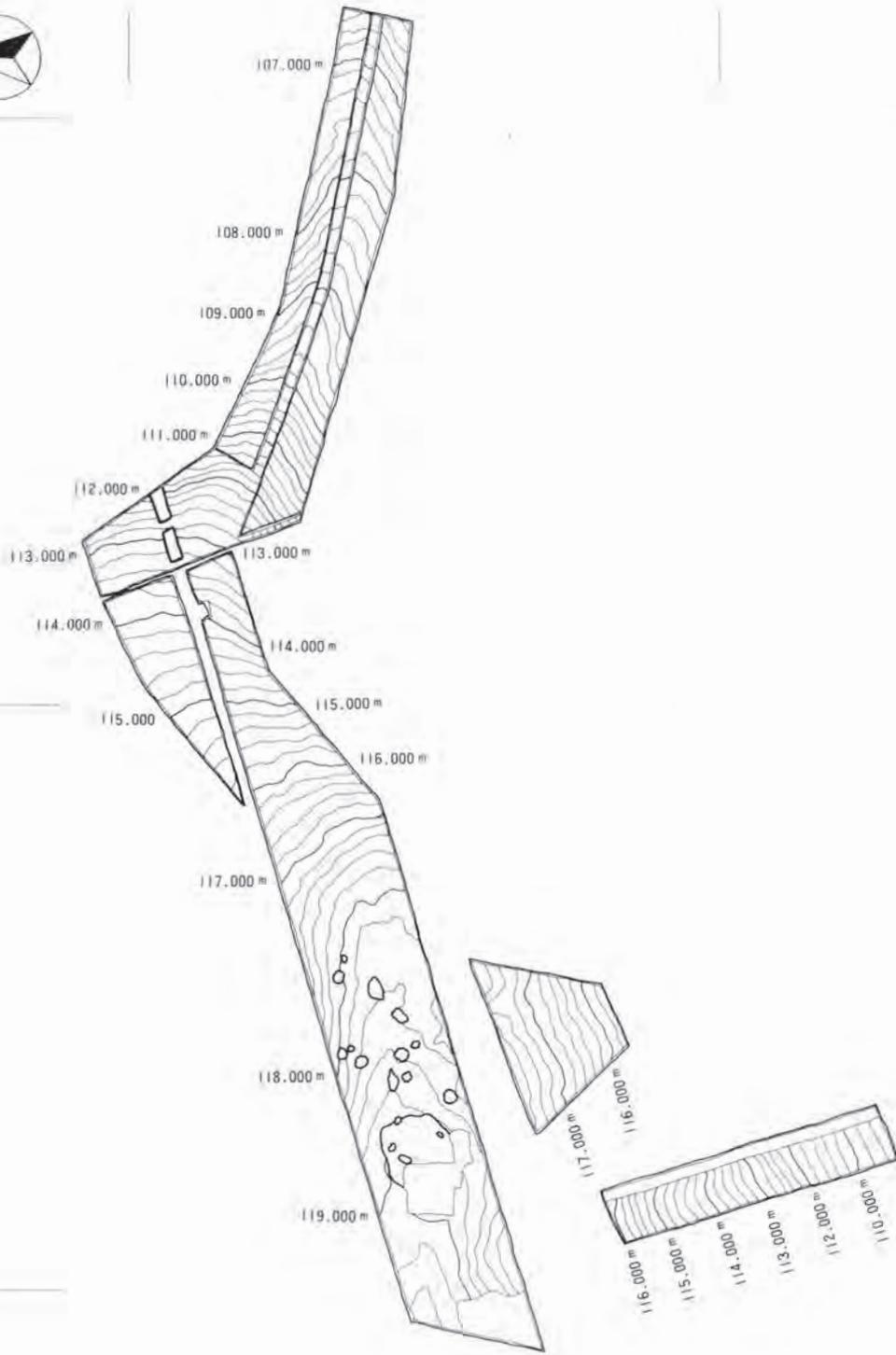
2. 地形・地質（第3図）

地形・地質についても、前述の各報告書、概報等で詳述しており、ここではその概要を記すだけとする。

当遺跡を含む崎山遺跡群の立地する丘陵は、小本丘陵と呼ばれるもので、地形形態上は丘陵であるが、その形成・発達上からは海岸段丘に相当するものである。段丘の原面は、開析が進行し尾根状に取り残されたりとその原面はほとんど失われている。

地質的には、その基盤となるものは、中生代に侵入した深成岩類及びこれにより圧砕され変質した安山岩質岩石などから成るが、風化の度合が著しく、表層部においては、粘土化、マサド化が進行している。

トロノ木Ⅳ遺跡は、尾根上及びそれに続く緩斜面上に立地するものである。



第4図 全体図

Ⅲ 調査内容

1. 調査方法

発掘調査は、宅地造成により破壊される部分のすべてを対象としたが、遺構・遺物の存在可能性が高い尾根部分を中心とした。

調査座標は、平面直角座標第X系を崎山遺跡群調査用に座標変換した局地的な座標体系（原点X-35800.000、X+97000.000）を使用した。

調査は、東側の尾根部より表土を剥ぎ遺構・遺物の有無を順次確認していった。

2. 遺構・遺物の検出状況（第4図）

調査対象区のうち遺構を検出したのは、北東-南西に伸びる尾根の高い部分である。東側の尾根及び谷部などからは、遺構は検出しなかった。遺物は、遺構を中心として出土しているが、その他の区域ではほとんど出土しなかった。

遺構はすべて縄文時代のものと推定されるが、竪穴住居跡の位置する尾根の一番高い所には、鉄塔（田老鉦山より原料をラサ工業に運搬するために設けられたケーブルの支柱）が作られたため、竪穴住居跡の東側は攪乱により消失している。また、竪穴住居跡自体が削平されており埋土がほとんどなく、検出時にはほぼ床面直上という状況であった。

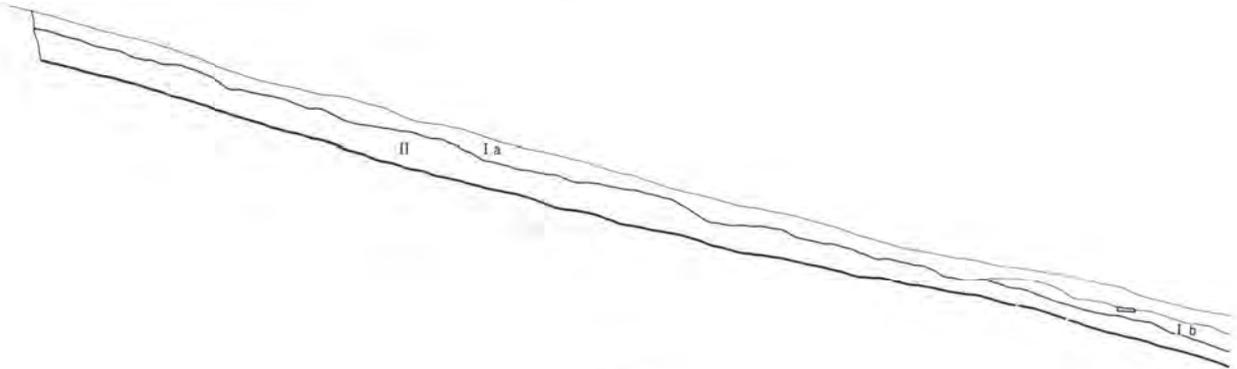
3. 層序（第5図）

今回の調査の基本的な層序は、2層に大別される。

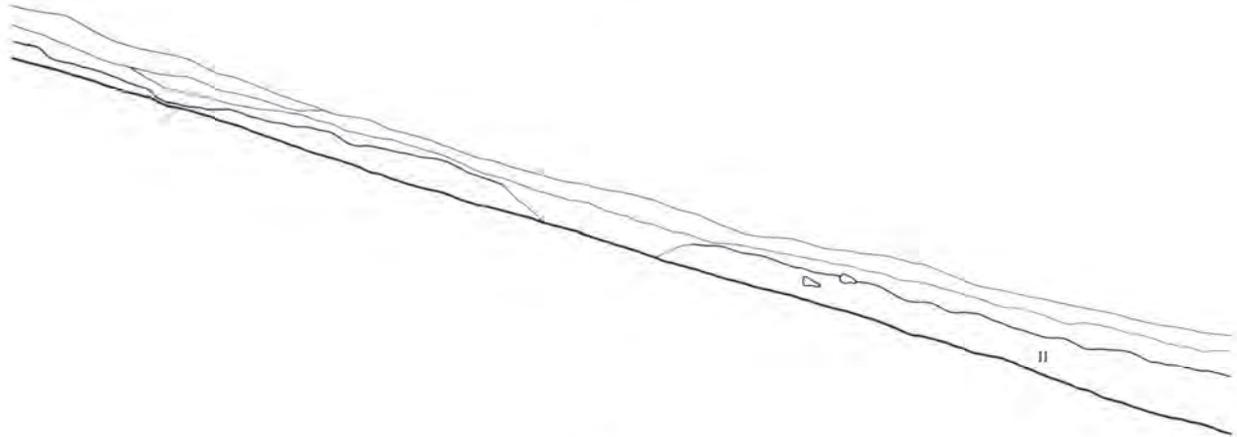
I層は表土層。暗褐色埴壤土を基本土とし、黄褐色～褐色埴壤土を塊状に含む。やわらかくてしまりのない層。尾根上では、削平等により薄く谷部や斜面上では厚くなる。遺物等はほとんど含まず、極小片が僅かに散発的に出土しているだけである。

II層は、やや赤味の強い褐色埴壤土を基本土とし暗褐色土などを小塊状に含む。やわらかくてしまりが少ない層で炭化物粒子を含む。遺物は、遺構を検出した区域を中心として出土しているが量的には多くない。

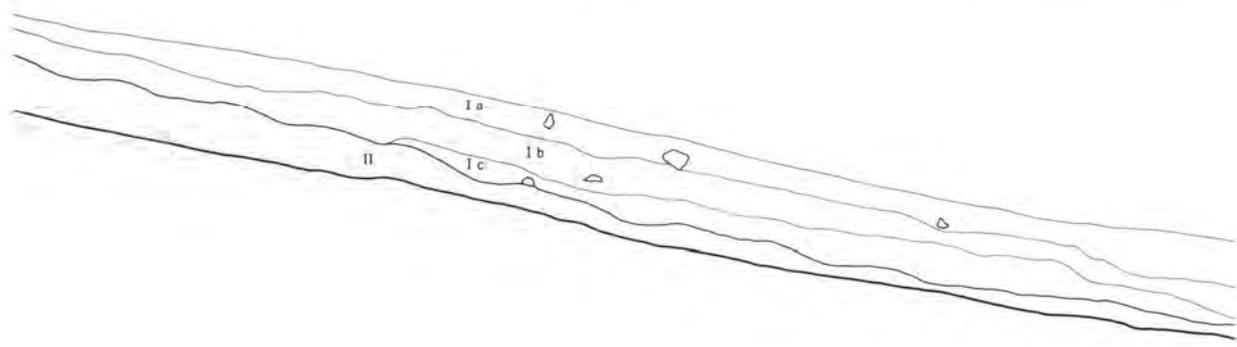
117,000 m



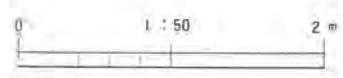
114,800 m



112,600 m



111,200 m



第5図 層序図

4. 検出した遺構・遺物

竪穴住居跡（第6図～第7図）

調査区内の北東-南東にのびる尾根の一番高い所に位置する。

平面形は、前述の通り攪乱により西壁-南壁側を欠き不確定だが、北壁、東壁の状況から方形ないしは長方形を呈するものと推定される。規模は長軸で5.1m以上、短軸で5.5mをはかる。壁は削平によりほとんど確認できないが壁高は0.05mをはかる。

埋土は、検出時にはほぼ床面ということもあり残りが少ないが赤味の強い褐色埴壤土を基本土とするA層を確認した。炭化物粒や焼土の小塊が含まれるあまり固さ、しまりのない層である。

床面は、平坦で固くしまっている。貼床等は認められない。

炉跡らしき施設は確認できなかったが、竪穴の南東側と中央からやや北壁寄り部分の2ヶ所に焼土の拡がりを確認したが、これらが炉（地床炉）になるものかは判断できかねた。

柱穴及びピットは、床面上にP₁～P₁₀までを確認した。P₁、P₂、P₄～P₈は直径0.2m内外の深さ0.1m前後の小規模なものであるが、壁際を巡るP₂、P₄～P₆が主柱に相当するものと考えられる。P₃は0.65×0.45mの楕円形ピット、P₉は0.65×0.5mの円形に近いピットである。いずれもやわらかくてしまりのない暗い褐色埴壤土を基本土とするものである。

遺物は床面上を中心に出土しているが、量的には多くない。第14図1～11が竪穴住居跡から出土したもので、11が西側の攪乱部から出土した以外の1～10は床面上から出土したものである。1は波状口縁を呈するもので、縄文施文後に沈線を山形状ないしは曲線的に施している。2、3は、口縁部上端に無文部を形成し口縁部の隆起線上に竹管の円形刺突文を施すもの。口縁下の体部上半は、磨消しと楕円形状の沈線の区画文を施している。4は、口縁部の上端を欠くだけのほぼ口縁部の破片で文様の要素や施文法などは2、3と同類のものである。5～9は体部片で沈線を主体として文様を描くもの。8、9は曲線的な沈線が施文されている。10は、縄文を施文しただけの体部片。11は、攪乱部から検出したものでもって隆帯による渦巻部がみられるもの。

第1号土坑跡（第8図）

平面形 不整楕円形 規模 0.75×0.5m 壁の状況 ほぼ直 底面 中央が高い

埋土 A層-やや赤味の強い褐色埴壤土を基本土とする。固く比較的しまっている。

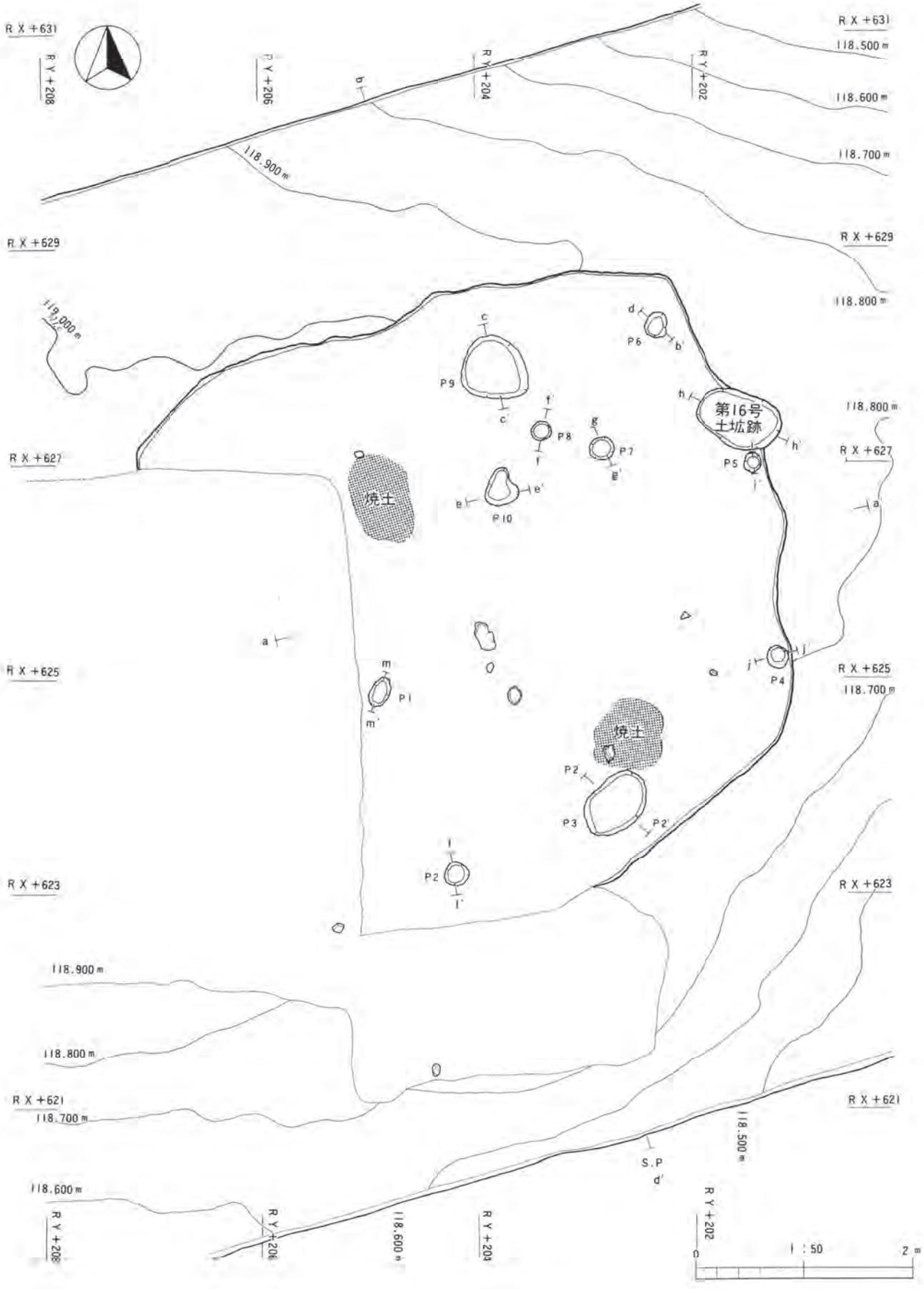
遺物 土器等の遺物は検出しなかったが、多量の炭化物粒が含まれていた。

第2号土坑跡（第8図）

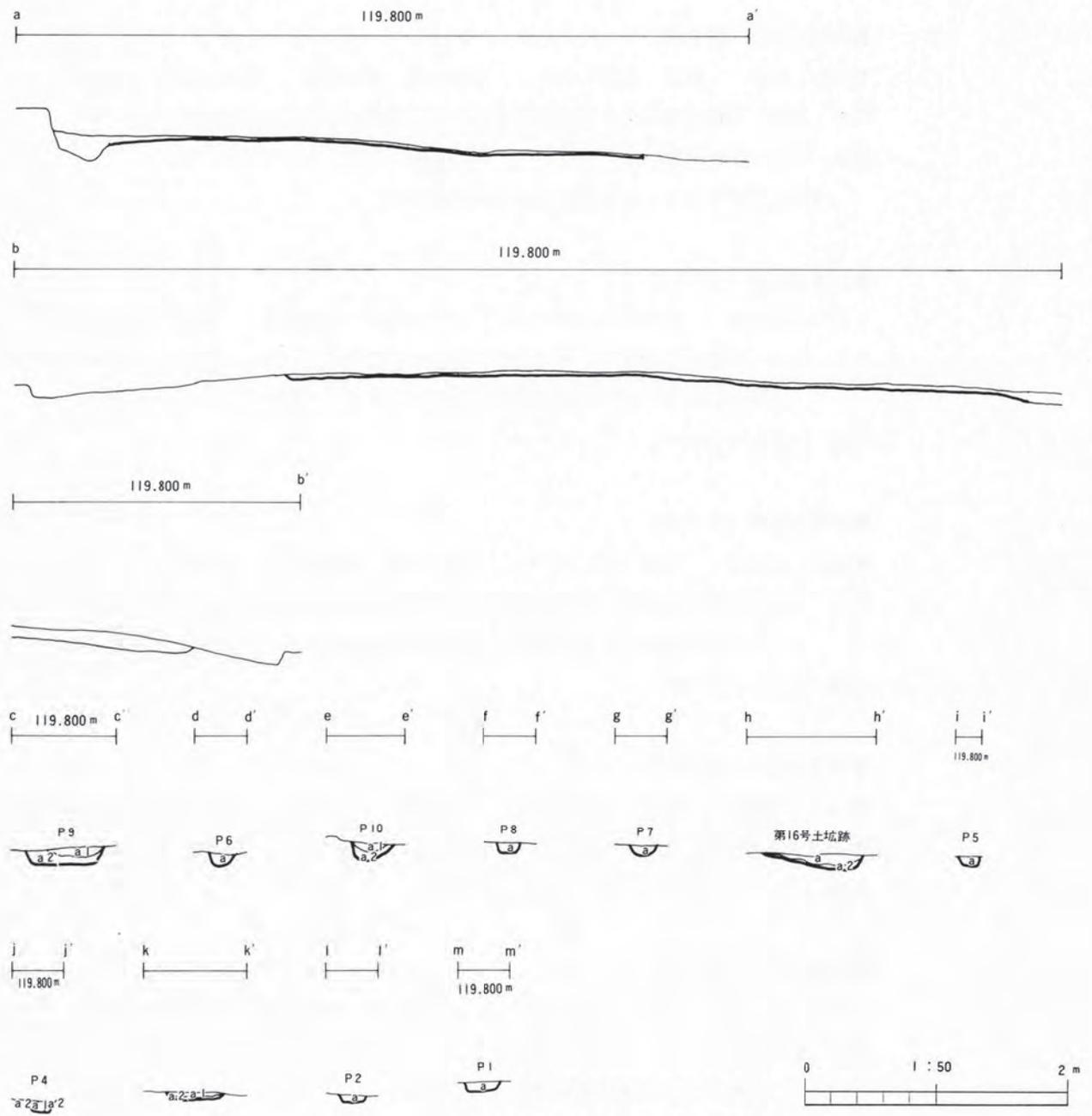
平面形 円形 規模 直径0.35m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 平坦

埋土 A層-やや赤味の強い褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまっている。

遺物 土器等の遺物は検出しなかったが、第1号土坑同様多量の炭化物が認められた。またわずかながら焼土の混入も認められた。



第6图 竖穴住居跡



第7図 竪穴住居跡土層断面

第3号土坑跡 (第9図)

平面形 長楕円形 規模 1.95×1.2m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 平坦
埋土 A層-赤味の強い褐色土を基本土とする。固く比較的しまっている。西壁際の中ほどに多量の焼土塊が認められた。
遺物 出土していない。

第4号土坑跡 (第9図)

平面形 円形 規模 直径0.65m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 幾分傾斜する
埋土 A層-褐色の埴壤土を基本土とする。比較的固くしまる。炭化物粒を少量含む。
遺物 埋土中より少量出土。第14図12、13は、同一個体と思われる。12は口縁部片で小波状口縁を呈する。どちらも捺糸文を施文するもの。

第5号土坑跡 (第9図)

平面形 楕円形 規模 1.1×0.95m 壁の状況 傾斜する 底面 凸凹が著しい
埋土 A層-暗褐色の埴壤土を基本土とする。やわらかくしてしまっていない。炭化物少量含む。
B層-やや赤味の強い褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまっている。
遺物 検出していない。

第6号土坑跡 (第11図)

平面形 長方形 規模 1.5×0.9m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 ほぼ平坦
埋土 A層-やや赤味の強い褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまっている。A1層は焼土を多量に含む層である。また、底面上から直上には多量の礫が存在する。
遺物 出土しなかった。

第7号土坑跡 (第10図)

平面形 楕円形 規模 0.6×0.5m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 ほぼ平坦
埋土 A層-明るい褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまる。炭化物粒を僅かに含む。
遺物 埋土中よりフレイク片が出土している。

第8号土坑跡 (第10図)

平面形 楕円形 規模 0.95×0.8m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 やや傾斜
埋土 A層-明るい褐色の埴壤土を基本土とする。固く比較的しまっている。ほぼ中央部に比較的大きな礫が数個まとまって検出した。
遺物 検出していない。

第9号土坑跡 (第10図)

平面形 ほぼ円形 規模 直径1.0m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 やや傾斜
埋土 A層-やや明るい褐色埴壤土を基本土とする。固く比較的しまっている。

遺物 検出していない。

第10号土壇跡 (第11図)

平面形 楕円形 規模 0.35×0.25m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 平坦

埋土 A層—赤味の強い褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまっている。A1層には、多量の焼土、炭化物粒を含む。

遺物 検出していない。

第11号土壇跡 (第11図)

平面形 楕円形 規模 0.85×0.6m 壁、底面の状況 浅い皿状を呈する。

埋土 A層—褐色の埴壤土を基本土とする。比較的固くしまる。炭化物粒少量含む。

遺物 検出していない。

第12号土壇跡 (第11図)

平面形 不整形 規模 1.25m 壁、底面の状況 浅い皿状を呈する。

埋土 A層—明るい褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまっている。炭化物粒少量ながら含む。比較的大きな扁平な礫が存在する。

遺物 極小片が数点出土しているが地文のみのものである。

第13号土壇跡 (第12図)

平面形 楕円形 規模 0.85×0.75m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 平坦

埋土 A層—明るい褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまる。炭化物粒を含む。北壁側に数個の礫が集石する。

遺物 検出しなかった。

第14号土壇跡 (第12図)

平面形 長楕円形 規模 1.3×0.8m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 平坦

埋土 A層—明るい褐色埴壤土を基本土とする。比較的固くしまる。ほぼ中央部に礫が存在。

遺物 極小片が数点出土している。

第15号土壇跡 (第13図)

平面形 ほぼ円形 規模 直径1.2m 壁の状況 やや傾斜 底面の状況 傾斜する

埋土 A層—やや明るい褐色埴壤土を基本土とする。固く比較的しまっている。炭化物少量ながら含む。

遺物 埋土中より数点出土している。第14図14、15だが、14は口縁部が肥厚するもので、口縁部は無文となる。体部には撚糸文を施文するもの。15は、磨消し部に沈線を施文するもの。

第16号土坑跡 (第6図)

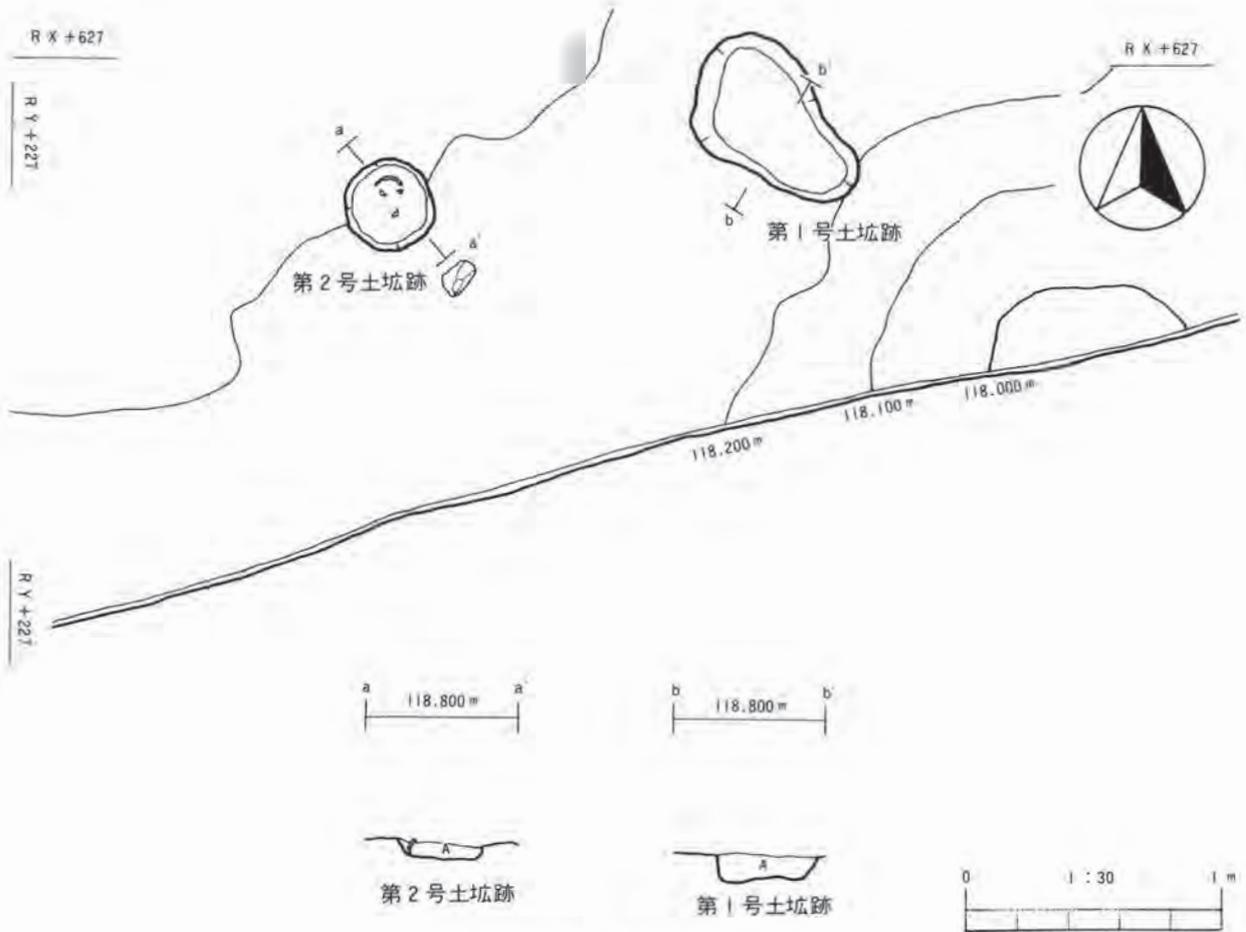
重複関係 竪穴住居跡と重複するが、これよりも新しいものである。

平面形 楕円形 規模 0.8×0.5m 壁の状況 ほぼ垂直 底面の状況 平坦

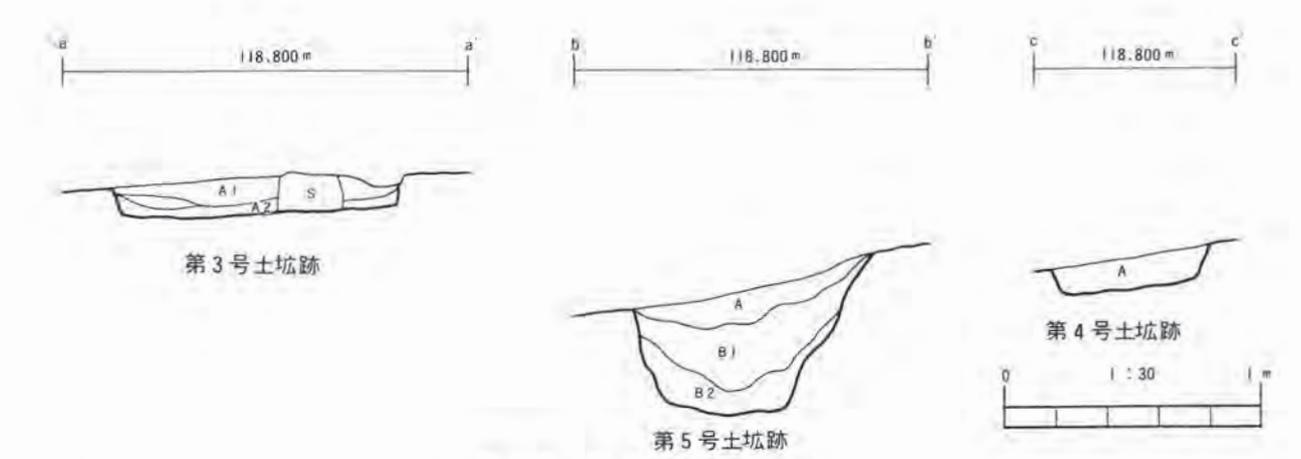
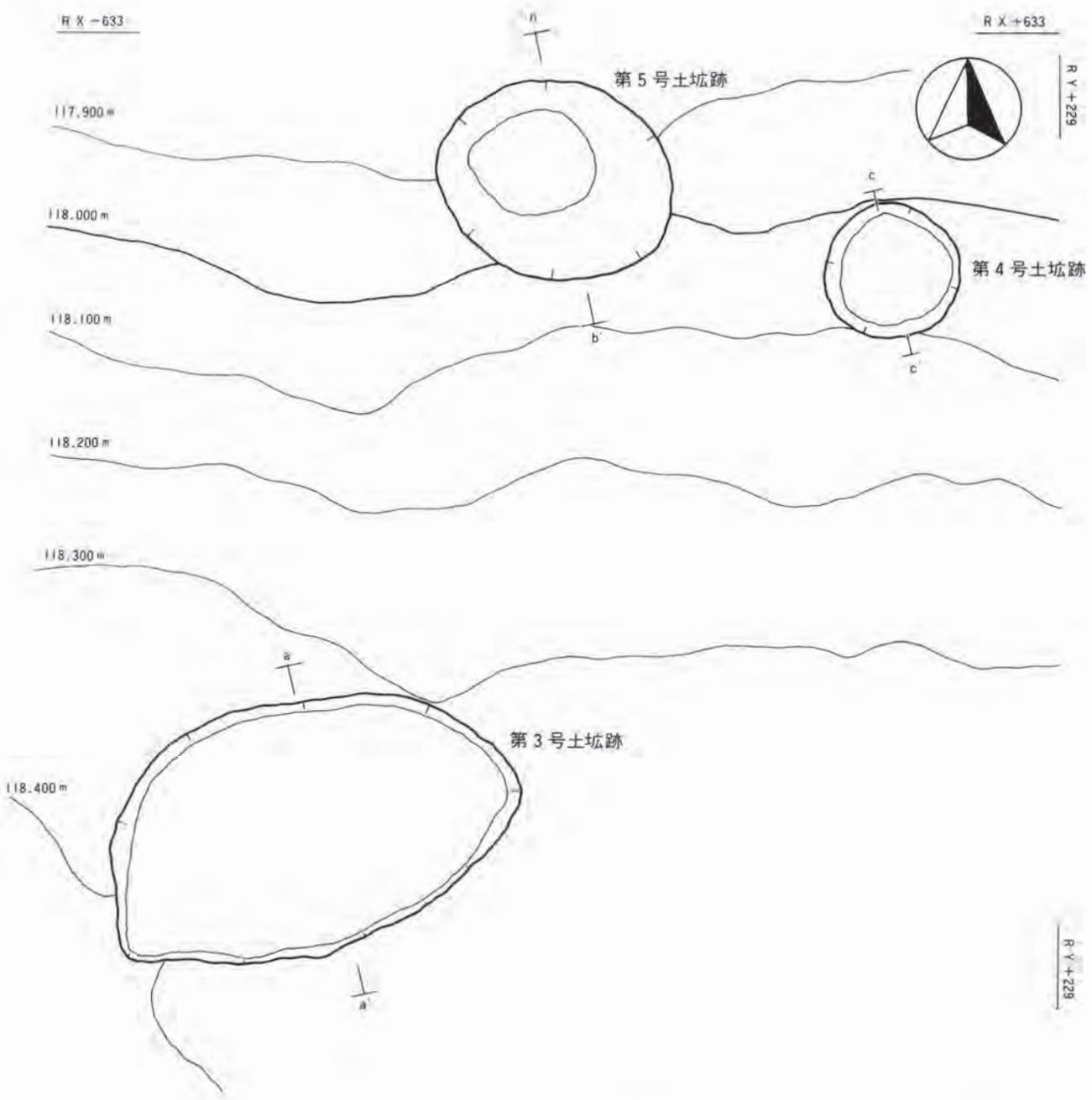
埋土 A層-暗褐色の埴壤土を基本土とする。固く比較的しまる。焼土・炭化物多量に含む。

B層-褐色の埴壤土を基本土とする。比較的固くしまっている。

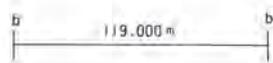
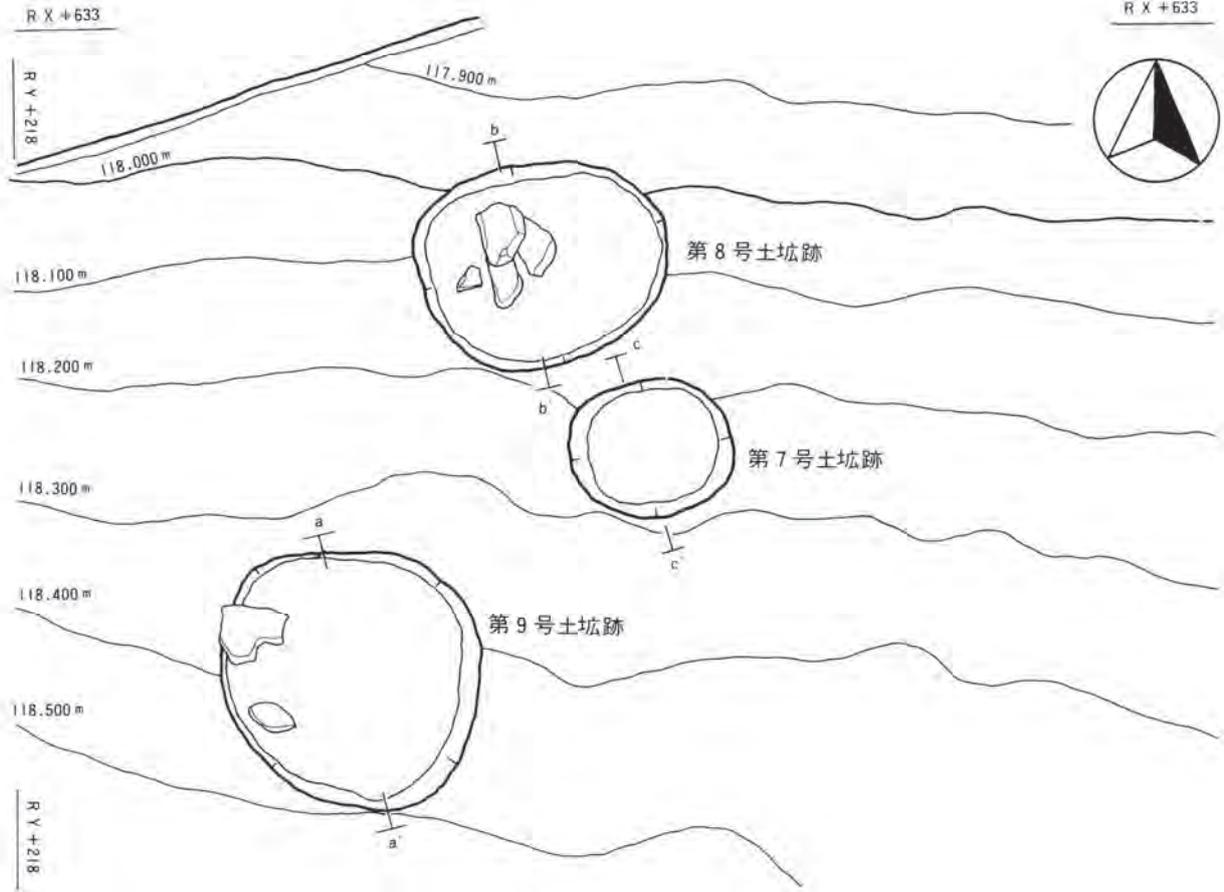
遺物 検出しなかった。



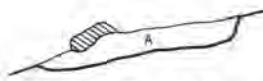
第8図 第1号、2号土坑跡



第9图 第3号~5号土坛迹



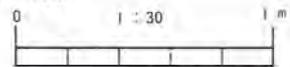
第9号土坛跡



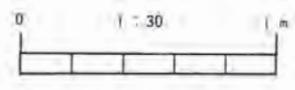
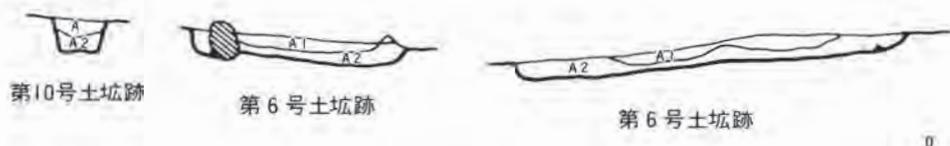
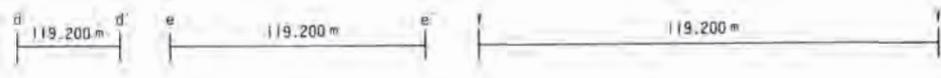
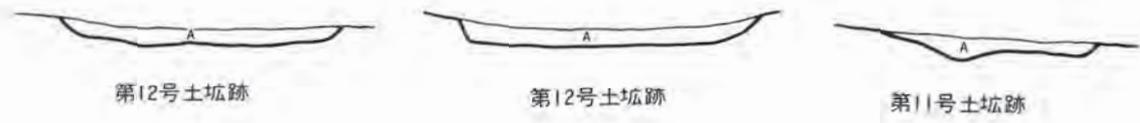
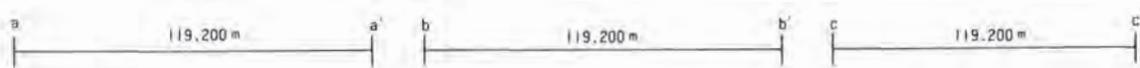
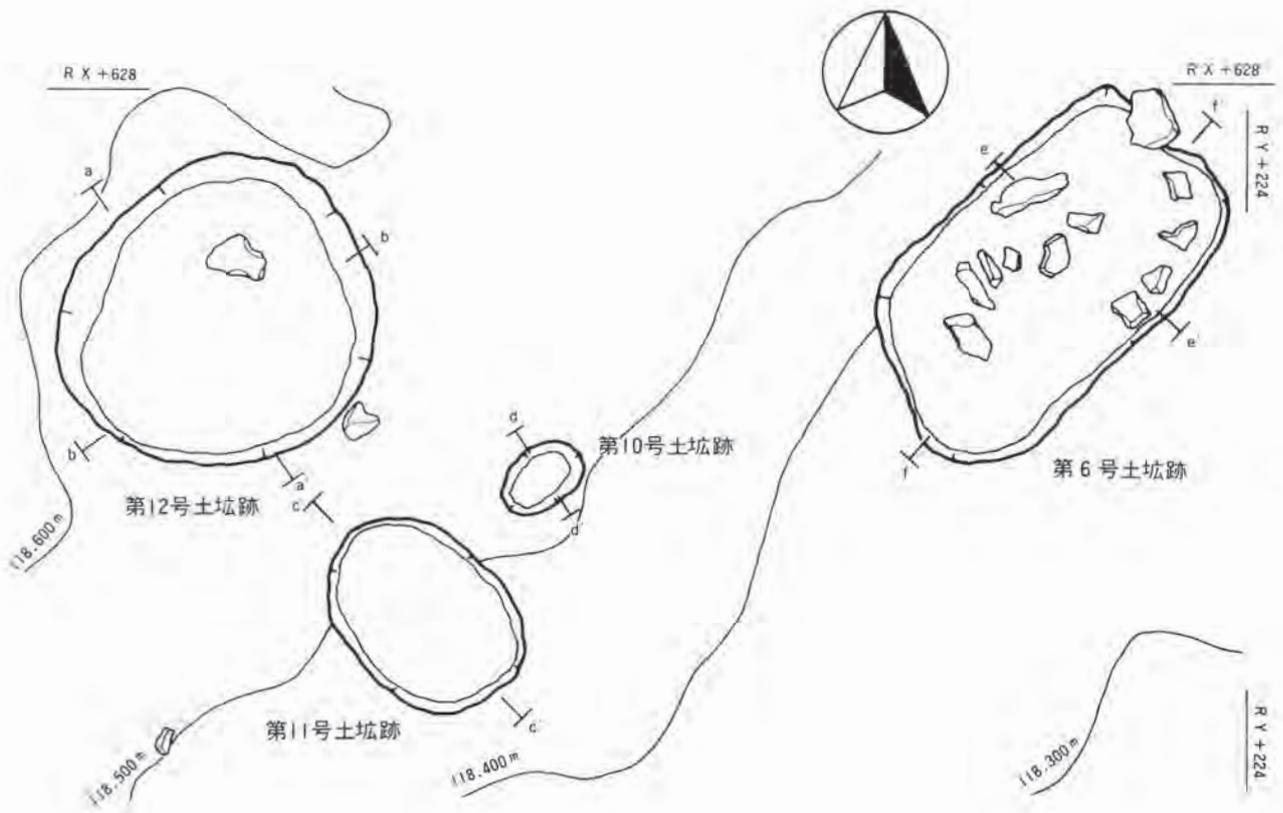
第8号土坛跡



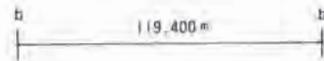
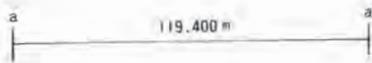
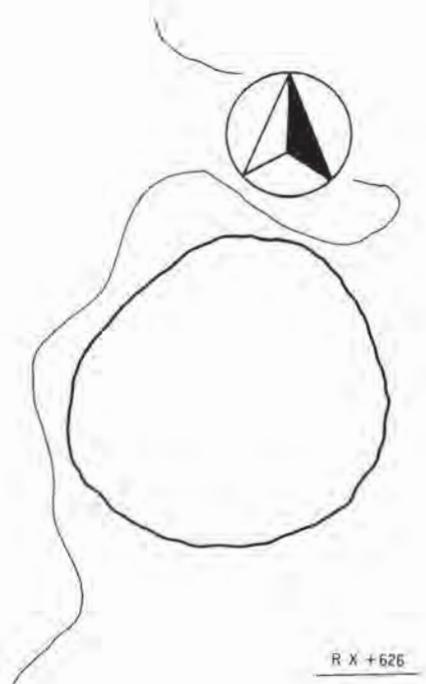
第7号土坛跡



第10図 第7号～9号土坛跡



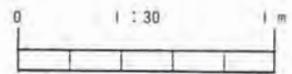
第11图 第6号、10~12号土坛迹



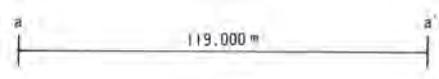
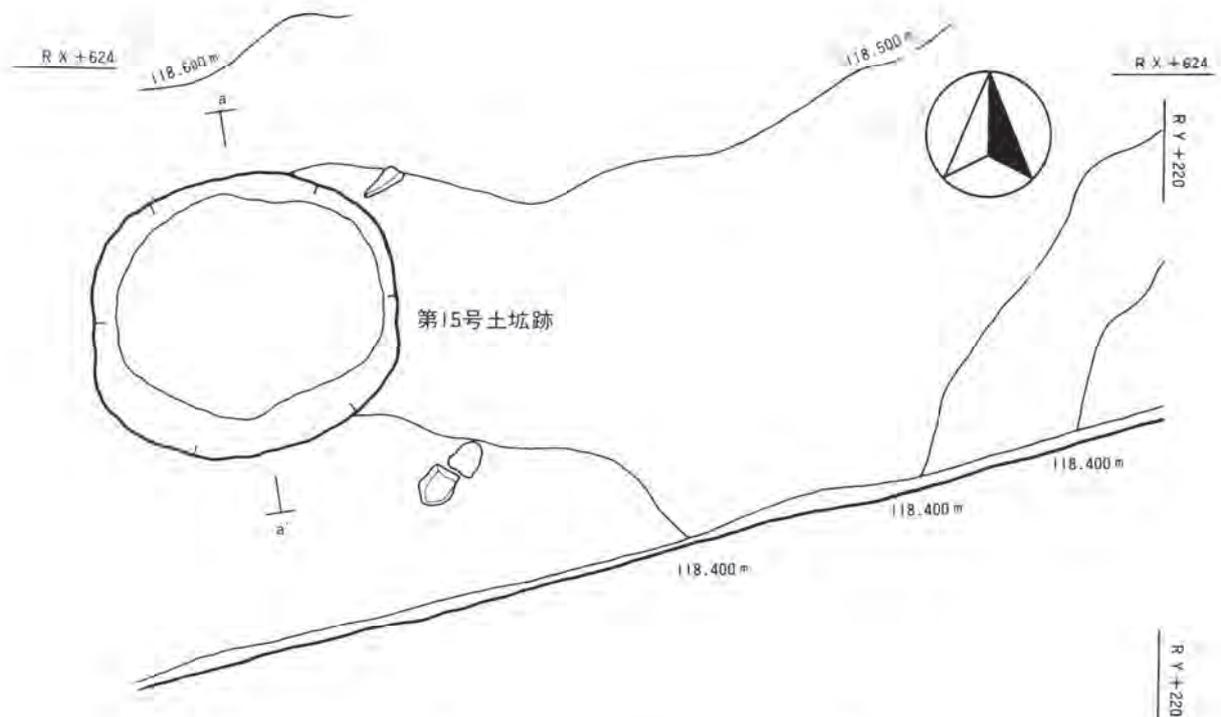
第14号土坛跡



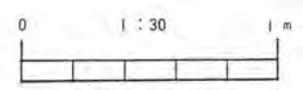
第13号土坛跡



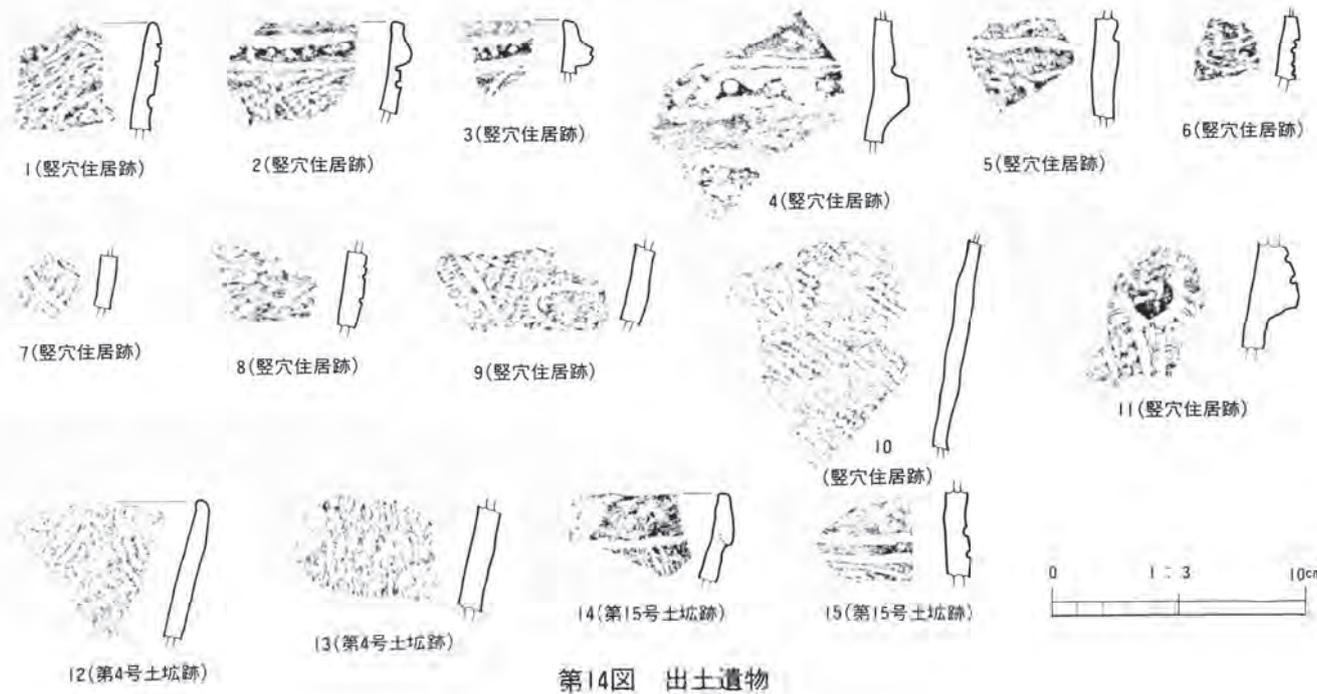
第12図 第13号、14号土坛跡



第15号土坑跡



第13图 第15号土坑跡



第14图 出土遺物

写 真 图 版



崎山遺跡群全景

第2図版



崎山下口ノ木Ⅳ遺跡景観



調査区トレンチ (1)

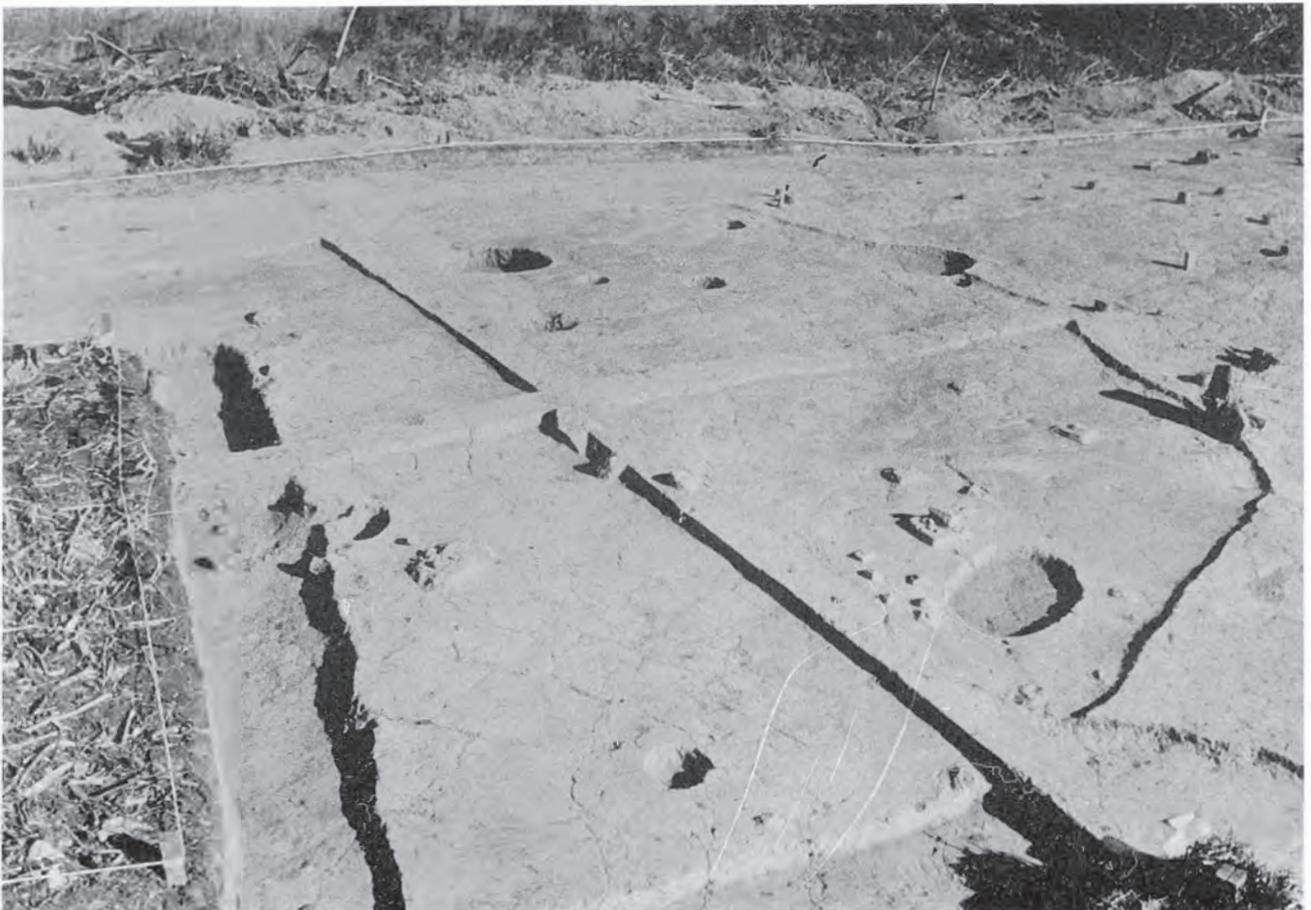


調査区トレンチ (2)

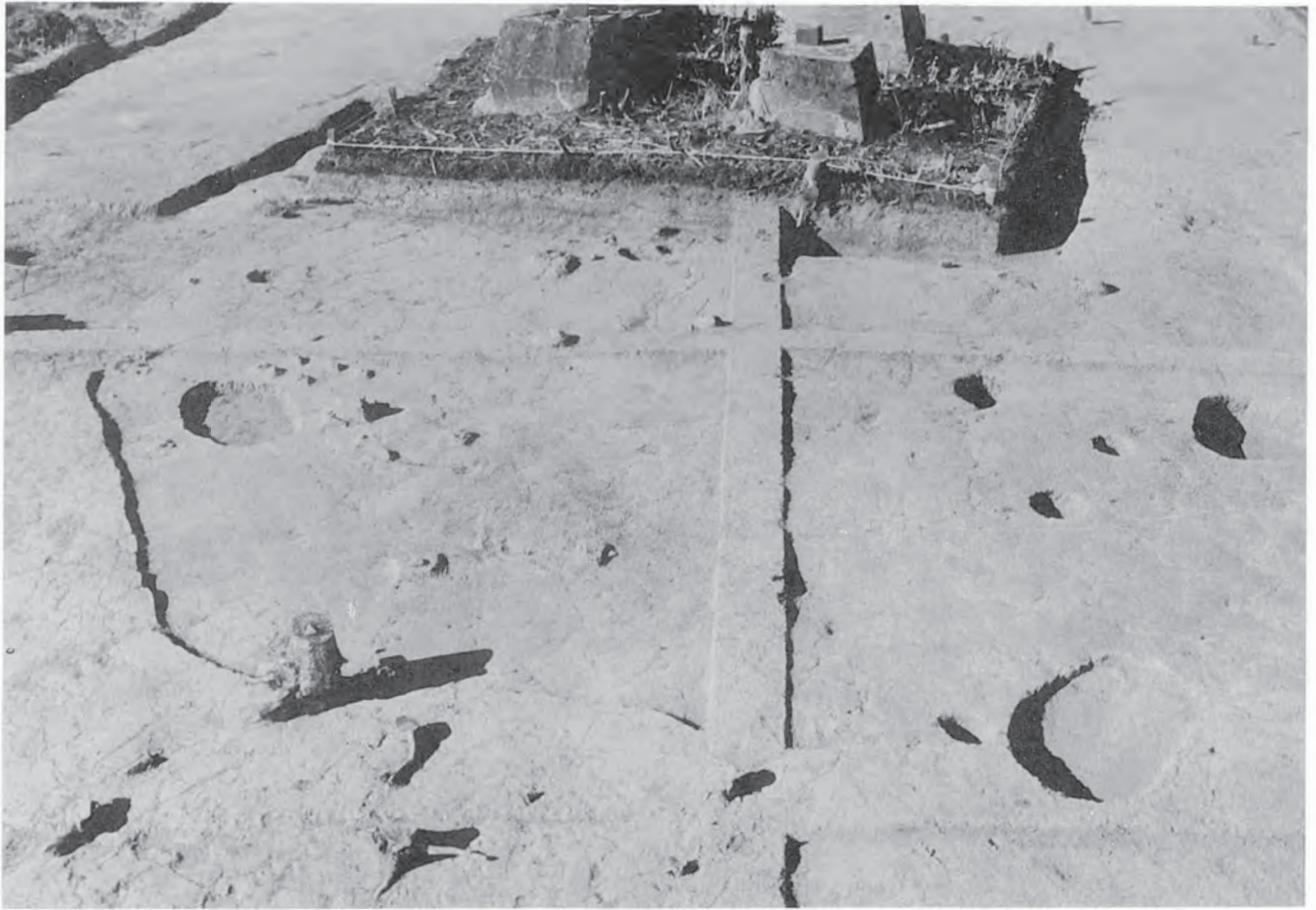
第4図版



遺構検出状況



竪穴住居跡（南から）



竪穴住居跡（東から）



第8号土壇跡

第6図版



第6号土坑跡（検出状況）



第6号土坑跡（完掘）

宮古市埋蔵文化財調査報告書21

崎山トロノ木Ⅳ遺跡

—昭和63年度発掘調査報告書—

1989.9

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒027 岩手県宮古市新川町2番1号
TEL 0193 (62) 2111

印刷 株式会社文化印刷
〒027 岩手県宮古市大通2丁目5の2